

- A. 日時 2013年2月9日(土) 15:00~17:00
B. 場所 北海道大学
C. 出席 主査:羽山広文、幹事:柳井崇、郡公子、委員:(赤司泰義)、(秋元孝之)、(石川幸雄)、
石野久彌、(猪岡達夫)、宇田川光弘、(岡建雄)、川瀬貴晴、(古賀誉章)、(小林陽一)、
(坂上恭助)、(佐々木邦治)、(佐野武仁)、(清水昭浩)、(高井啓明)、(高草智)、(千葉隆文)、
(仲野章生)、(中野淳太)、(二宮秀與)、(野部達夫)、(本間睦朗)、吉田治典
()付きは欠席、敬称略・順不同)

D. 配付資料

- 資料 No.5-1 2012年度第5回建築設備運営委員会議事次第
資料 No.5-2 2012年度第4回建築設備運営委員会議事録(案)
資料 No.5-3-1 2012年度小委員会活動成果報告・自己評価
(環境設備に関する学会基準(AIJES)における性能レベル検討小委員会、岡委員)
資料 No.5-3-2 2012年度小委員会活動成果報告・自己評価(環境選択型空調設計小委員会、野部委員)
資料 No.5-3-3 2012年度小委員会活動成果報告・自己評価(気象データ小委員会、二宮委員)
資料 No.5-3-4 2012年度小委員会活動成果報告・自己評価(次世代排水システム小委員会、坂上委員)
資料 No.5-3-5 2012年度小委員会活動成果報告・自己評価(環境建築設計法小委員会、羽山主査)
資料 No.5-3-6 2012年度小委員会活動成果報告・自己評価(ガラス建築快適環境WG、佐々木委員)
資料 No.5-4 第8回建築設備シンポジウム会告、実施計画書(羽山主査)
資料 No.5-5 2013年度大会 環境工学部門 研究懇談会 テーマと内容(羽山主査)
資料 No.5-6 建築設備運営委員会 委員委嘱について

E. 建築視察:

委員会審議に先立ち、北海道日建設計の山中哲氏らにご説明・ご案内頂き、苫小牧信用金庫本店およびまちなか交流館の建築・設備の視察を行った。

F. 議事:

1. 前回議事録が確認され、承認された(資料No.5-2)。
2. 各小委員会、WGの今年度活動成果報告・自己評価が報告され確認された。
 - 1) 環境設備に関する学会基準(AIJES)における性能レベル検討小委員会(資料No.5-3-1)
 - ・建築環境・設備設計図書に関する学会基準シンポジウムを開催した。
 - ・環境・設備性能項目の抽出と設計資料の骨子作成、IT活用によるデータ構造化の検討、ソーラー建築の設計評価用データの収集を行った。
 - 2) 環境選択型空調設計小委員会(資料No.5-3-2)
 - ・「環境設備デザインの再興とSAIKO(最古・再考・Psycho、最高)」シンポジウムを開催した。
 - ・研究事例、設計・実施事例の調査により、用語の定義、論点整理を行った。システム設計法の検討、設計法確立のための検討事項の抽出を行った。
 - 3) 気象データ小委員会(資料No.5-3-3)
 - ・2001~2007年の拡張アメダス気象データの編集作業を完了し、年度内公開が可能になった。
 - ・2011年までの55地点1分値気象データを収集し、基本処理を完了した。そのほか、波長別日射量、UV-ABの観測・データ蓄積、デジタル百葉箱による気象データ収集を展開した。
 - 4) 次世代排水システム小委員会(資料No.5-3-4)
 - ・設計ガイドラインのフレーム作り、自立給排水設備の情報収集、次世代排水システムの適用可能性の整理を行った。
 - ・3つのSWGで検討項目を分担し、検討結果を小委員会に報告・議論して作業を進め、目標を100%達成した。

5) 環境建築設計法小委員会（資料 No.5-3-5）

- ・環境建築の設計事例・評価事例、環境建築の設計法やツール、建築設備の教育事例の収集・分析を行った。活動状況、議事録、シンポジウム報告をホームページで公開した。
- ・毎年開催の建築設備シンポジウムの企画・実施支援を行い、多数の参加者を得た。また、シンポジウム「見る・使う・学ぶ 環境建築」の企画・実施支援を行った。
- ・2010～2012 年度の各年オーガナイズドセッションを企画・実施支援した。
- ・自己評価を B から A に変更する方がよいとの意見が出され、変更することになった。

6) ガラス建築快適環境 WG（資料 No.5-3-6）

- ・報告の義務はないが、他の小委員会と同様に活動成果・自己評価の書類を作成し報告した。
- ・ガラス建築の出版に向けたデータ収集、海外のガラス動向の情報入手を行った。

3. 第 9 回建築設備シンポジウムの企画内容について審議された。

1) 今年度開催の第 8 回建築設備シンポジウムのプログラムと実施計画書について説明された（資料 No.5-4、羽山主査）。

2) 検討中のシンポジウム企画案について説明された（郡幹事）。

- ・昨年度と同様に第 1 部を「話題の環境建築」、第 2 部をオリジナルなテーマとする案である。
- ・第 2 部に関しては、2 つの案があり、1 つは「環境建築の新たな展開」というタイトルで、震災以降注目されるようになったスマートシティやエリア単位のゼロエネルギーと環境建築、BCP と環境建築、環境・ライフスタイルと環境建築について、また環境建築普及の推進力としてノンエネジーベネフィット、省エネ基準などについての講演とする。もう 1 つの案は、「環境建築の最先端技術」というタイトルで、最新の研究成果情報の講演とするというものである。

3) シンポジウム企画内容について審議され、種々の意見が出された。

- ・震災以前は CO2 排出量抑制や電力平準化などが重視されていたが、震災後は健康重視になっている。
- ・環境建築の事例を第 1 部、環境建築のための技術を第 2 部とする方向はよいのではないかと。
- ・もっと明確な特徴をもつテーマにしてもよいのではないかと。
- ・例年企業の方の講演が多いが、第 2 部を少しアカデミックな内容にする方向もある。また、テキストをパワポ原稿から論文スタイルの原稿に移行できるとよい。
- ・第 1、2 部の最初に基調講演の位置づけで 30 分程度の講演を設けてはどうか。第 1 部は日建設計の野原氏、第 2 部は岡山理科大の吉田先生に講演をお願いしてはどうか。
- ・第 1 部で紹介する事例は、例年のように受賞作品から選ぶ方法でよい。
- ・デザイナーに講演をお願いするかどうかを決める必要がある。また、参加者が増えるような講演内容、講師の構成に配慮できるとよい。

4) 今後のスケジュールを確認した。

- ・今回の審議結果をもとに企画内容の具体化を進める。
- ・来年度第 1 回の環境工学本委員会に、開催主旨を説明する実施計画書を提出する。
- ・8、9 月の会告に載せるには、6 月までに企画内容を具体化する。

4. 2013 年度大会研究懇談会について報告がされた（資料 No.5-5、羽山主査）。

- ・テーマ「U-40 が語る環境工学研究の最前線と分野連携 ―これから 20 年のビジョン―」の建築設備分野の講演を、北海道大学の森先生にお願いした。

5. 来年度建築設備運営委員会名簿を確認した（資料 No.5-6）。

- ・小委員会幹事の森川元樹氏、三浦克弘氏、細淵勇人先生を加えるなどの修正を行うことになった。

6. 次回委員会

3/14（木）14:45～16:45 於：京都大学清風荘

（文責：郡）